

名 称	鹿沼市小中学校再編計画策定に向けた意見交換会（南押原地区）について
日 時	令和 6 年 4 月 26 日（金）19 時 00 分～20 時 53 分
場 所	南押原コミュニティセンター
出席者	参加者：41 名
内容及び 結果等	【意見】 アンケートに恣意性を感じる。榆木小や南押原小と東小・東中を比べれば必ず「少ない」という回答になると思う。前段で適正人数が何人なのかや少人数の中でもこういった教育環境を整えるなどの話がなければ、あまり意味のないアンケートなのではないか。 【回答】 あくまでも保護者が現状をどのように感じているかを確認する「意識調査」を目的としたアンケートである。基準については本意見交換会で説明し、保護者や地域住民の骨子に対するご意見を頂戴しながら、計画の策定を進めているところである。
	【質問】 学校再編には賛成するが、学校再編の必要性について教育的見地からの説明が心に響かなかった。やり方を考えた方がいいのではないか。 また、財政的な見地からはどのように考えているか。 【回答】 財政的な面からは、学校が1校なくなることで学校の運営費や管理費のほか、市の予算ではないものの先生方の人件費の削減が考えられる。一方で、スクールバス新規導入や学校施設の補修の継続などが必要であり、はっきりと言えない部分がある。他市事例においても、再編による財政的なメリットは明確には分からないと聞き及んでいる。 再編については、第一に子どもの教育環境のために進めており、財政的な面は二次的なものと捉えている。
	【発言者返答】 財政的な面を考えずに施策を進めることがあるのか。例えば、統合により浮いた分の予算を新たな教育につぎ込むなどの考えはないのか。 【回答】 財政的な面を考えていないということではない。予算については、確保している分をそのまま使える前提であれば、非常勤の先生を増やしたり、学校の備品充実などが考えられるが、市全体の話になるので明確には回答できない。
	【意見】 感情や気持ちではなく、教育環境の整備などの子ども達が受けるメリットが示されなければ善し悪しの判断はできない。お金がたくさんかかるのであれば、それは子どもたちに負債を残すことになるので、そういった視点からも示してもらいたい。
	【質問】

骨子 p.3 において、南押原地区では2つの案が示されている。通常は人数の多い学校へ統合されるものと思うが、案①は楡木小へ、案②は南押原小へ統合という認識か。

【回答】

一つはどこの学校に統合するかも含めて小学校の統合を考えるものであり、もう一つで南押原地区の小中一貫教育の実施までを考えるかを提案させていただいているもの。

【意見】

着地点がはっきりしていないため、議論がいつまでも続いてしまうのではないか。要是学校が無くなるのが非常に大きい問題であり、どこの学校に行くのかが明確でないまま進めていくことに疑義を感じる。

学校は地域コミュニティの核という話があったが、学校がなくなると地域の魅力がなくなり、子育てをする世代は住まなくなるので、人口減少が益々進むことになる考える。先日消滅可能性都市の発表があり、鹿沼市は該当こそしていないが、県内で次に危険な状態であった。学校再編は仕方ないと思う反面、再編により消滅する地域が増え、鹿沼市が消滅可能性都市になってしまうことに不安を感じる。

学校再編にあたっては、消滅する地域を可能な限り少なくするような地域づくりを併せて考えながら進めていただきたい。

【回答】

地域に小中一貫教育を行える学校を作り、若い世代が伝統ある地域に住みながら魅力ある学校に通えることが地域の魅力づくりになるのではないかと考えている。

他にも経済活性化や農業振興など市全体で取り組んでいくものと認識しているが、まずは子ども達のことを第一に考えた上で、様々な課題を整理していく。

【発言者返答】

小中一貫教育の方に持っていくイメージか。また、小中一貫教育を行う場合、オリジナルの魅力ある学校を作るためにどのような考えを持っているか。

【回答】

あくまでも、現状の案としてそのように提案しているものである。

小中一貫教育については、鹿沼市では未だ導入したことがなく、地域や保護者の方々や学校関係者と協力しながら作り上げていき、他の地区にない魅力を小中一貫教育でつくっていきたいと考えている。

【発言者返答】

県内あるいは全国でモデル校となるような、魅力ある学校づくりをお願いしたい。それならば皆納得すると思う。

【質問】

他地区では検討されていない小中一貫校を南押原地区で検討しているのは何故か。

【回答】

	小中一貫教育については、北犬飼地区でも義務教育学校を検討している。 検討理由としては、これまでに「南押原の教育を考える会」などの地域からの意見があったことや、校舎の立地や児童生徒数などが小中一貫校を行う上で適した環境になっていることなどから、魅力ある教育体制の導入を検討したものである。 【発言者返答】 先日南押原小の入学式に参加したが、入学者が5名しかいなことに驚愕するとともに、我々の時代とは異次元の世界で育っていくのだと感じた。 小中一貫教育は離島や過疎地域での教育方法という印象があるが、マイナスに捉えるのではなく、モデルケースとして南押原地区を選んでもらえたというプラス思考で捉え、様々な意見を出し合いながら新しい未来を拓くきっかけになることに期待する。個人的には、応援したい。
	【意見】 学校再編について、子ども達の数が少なくなっており、子どもたち同士の刺激で成長する機会が減ってしまっていることを考えると、どこの学校に集まるかは別問題としても、統合はやむを得ないものとする。 【質問】 資料で示された小中一貫教育のメリットについて、義務教育学校であれば同一敷地内のためこのメリットを達成できるものと理解できるが、小中一貫校における既存の施設を活かす形でこのメリットを満たすことが可能なのか。 【回答】 小中一貫校では、小中学校にそれぞれ校長先生や教職員組織が置かれており、それぞれが独自性を出すことで、小中一貫教育のメリットを享受しつつ、既存の学校の良さを活かした教育ができると考えている。きちんとメリットを享受できるように今後の調整を進めていきたい。
	【意見】 学校再編の基本は子ども達である。学校が無くなることで地域のコミュニティがなくなってしまう部分もあるが、子どもを第一に考えて本当に必要なのか吟味する必要があると個人的に考えており、どちらかといえば再編を推進すべきとの考えである。 なお、再編にあたっては、学校の跡地利用についてセットで議論する必要がある。 また、小中一貫校については、南押原という一つのエリアで考えて進めるべきものであり、地域の新しい顔として期待している。南押原の教育を考える会においても小中一貫校に関する意見が出ており、正式決定ではないがそういう方向に進むものと認識している。 【質問】 義務教育学校の場合、先生方が小中学校の教員免許を持っておく必要が生じるのではないのか。 また、小中一貫校の場合、既存の施設を活用しそれぞれ別の組織が置かれるので、義

	務教育学校に比べ導入しやすいと個人的には考えるが、新たに用地を取得し学校を新設する考えはあるか。 【回答】 南押原小と南押原中は比較的築年数が浅いうえ、楡木小の調整が決まっていないので、現段階では既存の学校を活用する方針である。 教員免許については、他県事例で当分の間は小中いずれかの免許があれば可とする猶予期間があることを確認しているが、詳細は確認中である。
	【意見】 南上野の子ども達のことをあまり考えていない印象を受ける。楡木小や南押原小の子どもは同級生とそのまま学校に行けるが、みなみ小の子どもは同じクラスの内1人だけが行くような状況になる可能性があり、転校に近い。 現状として、みなみ小に通う子どもが友達が多く部活動の選択もある北押原中への進学を望み、実際に通っている子どももいる。 そういった状況も含めて、小中一貫校を考えているのかという思いと地域の皆さんにもこういったことを考えている保護者がいることを知ってもらいたいという思いがある。 【回答】 南上野町については、ほとんどが北押原中に進学するみなみ小に通っている一方、自治会としては南押原地区になるとなる非常に複雑な状況にあることは認識している。 実情をしっかりと確認したうえで、統合の検討を進めていく。 【発言者返答】 南上野町で人が増えるのかはわからないが、現在の統合スケジュールの年次に子どもがいるか疑問に感じる部分もあり、きちんとした形でなくとも、こうしたいという形を早い段階で示していただきたい。できれば次の説明会の時には出していきたい。 【回答】 北押原地区の保護者等に向けた意見交換会において、みなみ小の保護者の声を聞いてほしいという意見があった。本日いただいた意見を持ち帰り、よりよい再編になるよう検討する。
	【意見】 実際に入学してくる子ども達の人数が少なく、南押原中学校は適正規模とされているが、保護者からすれば小規模だと感じる。小さい学校はのびのびやっていて、そういう意味ではすごくいい学校と感じるが、これ以上減ってしまうことに不安があり、再編は仕方ないものと感じる。 実情として入学説明会には2、3人多く来るが、同級生の数に魅力を感じず、他の地域に引っ越すなどのなにかしらの理由で他の地域に出ていってしまうケースがある。 南押原で小中一貫校をやるとしても、実際に始まる数年後には子どもの数がさらに減ってしまう。小中一貫校にすごくいいところがあれば、南押原地区から子どもが益々流

	出していまい、始めてみたが人が少ないという状況になりかねないのではないか。 極論であり、地域的にも良くないのかもしれないが、北押原地区との統合も案としては考えられるのではないか。 【質問】 保護者向けアンケートについて、回答率はどの程度か。皆できちんと話し合う必要性を感じた。 【回答】 アンケート回答率については、南押原小が 34%、楡木小が 36%、みなみ小が 24%、南押原中が 27%であった。
	【意見】 再編には賛成である。 子ども達にふるさとの感覚を残すためには、南押原地区を一つの単位として、どこに教育の場を置くかを考えるべきである。学校あつての地域という考えもあるが、地域は学校に協力する、教育を守っていくという考えが必要であり、子ども達のこれからの将来のための再編であることを深く考えなくてはならない。 学校への入学者がずっと減っている実情があるが、学校に魅力がない事や不満があることが理由であり、そういったことを無くし、ここに生まれた子ども達がここの学校に入れる雰囲気を作ってやるのが大切と考える。 そのためには、南押原地区への義務教育学校の設置を望むところではあるが、北犬飼地区では校舎を建替える時期なのでそういう検討があつたものと認識している。南押原小・中学校は築年数が比較的浅く、それを壊して再建するのは財政的に難しいと判断し、南押原の教育を考える会では、既存校舎を利用した小中一貫校という選択がいいという話になった。 子どものためにどういう環境を作るべきなのかを考えるべきであり、子どもがこの学校を出てよかったと思える小中一貫校を南押原でやっていただきたい。
	【質問】 鹿沼市としては、将来的に他の地区においても小中一貫教育を広めていく考えか。 【回答】 小中一貫教育は、適切な学級数や学校敷地などの条件的なものがあり、その地区で条件を満たせるかを判断しながら決めていくことになる。 ただし、今回の南押原地区や北犬飼地区での導入により非常に良い成果が確認できた場合、将来的に考える方向性が決まっていくものと捉えている。
	～事務局から事務連絡～ 1 いただいた意見は、全地区終了後、個人情報に配慮した形で HP 上に掲載させていただく。 2 今後のスケジュールとしては、6月までに全 15 地区の地域住民向け意見交換会を実施し、7月からはいただいた意見を踏まえた検討、9月にパブリックコメントの実施、10月

	に計画策定を目指している。 3 計画策定後は、改めて地域に訪問して説明を予定している。
	<閉会>20:53
配布資料	・学校再編の目的 ・小中一貫教育について ・鹿沼市小中学校再編計画骨子及び鹿沼市の小中学校の配置図 ・アンケート用紙